



「朝明けには喜びの叫びがある！」（要旨）2022.10.23

詩篇30:4-6 説教者 原田憲夫

説教前賛美：教会福音讃美歌443番「人生の海の嵐に」

説教後賛美：教会福音讃美歌 421番「苦しみわれを囲むとも」

今週の聖句：詩篇 30篇5節後半

昨今、世界は多くの災害、危険な出来事などに取り囲まれ、私たちは夜が長く感じられる日々を送っている。詩篇30篇から三つの点に心を向けたい。

【1】「主にある敬虔な者たちよ 主をほめ歌え。主の聖なる御名に感謝せよ」(4節)

「主」とは、天地万物を創造された永遠の神である。この方はこの世界とその中にあるすべての物を保ち、聖と義をもって導かれる。

この方は、私たち人間が作る「像」とは全く異質である。ところが私たちは自分の作る「像」に酔いしれ、真の神に背を向ける過ち/罪にしばしば陥る。

→詩篇は、敬虔な心で神の御前に進み、「威厳と威光」「力と輝き」「栄光」に溢れる聖なる神を讃え、感謝の歌を献げよ、と呼びかける。

【2】「まことに 御怒りは束の間 いのちは恩寵のうちにある」(5節)

聖なる神は、罪、穢れと相容れない。従って私たち人間の罪の代償は永遠の滅びとなる。しかし聖なる神は同時に愛の神である。すなわち、暗闇の中で滅びの道を彷徨う私たち人間を憐れみ、「救い主イエス」をこの世に送られた。

「救い主」は、私たち人間の一切の罪を引き受け、十字架の上でご自分のいのちを捨てて私たちの罪を贖い、救いの道を開かれた。

→「いのちは恩寵のうちにある」とは、聖なる神の恩寵—十字架による救いにほかならない。この「救い主」を信じる者は誰でも「永遠の救い」にあずかることができる。

【3】「私は平安のうちに言った。『私は決して揺るがされない』と」(6節)

紀元1世紀、救い主イエス・キリストを信じたキリスト者は、その忠実な信仰のゆえに迫害された。しかし彼らはその死と隣り合わせの過酷な状況の中でも神を信頼し、心の平安を得た。

→「キリストのことばをしっかりと心に抱き、互いに教え—励まし合い、感謝にあふれて心から神に向かって歌った」(コサ13:16)。(参照)詩篇96:11-12

【招き】

夜が長く感じられる日々は続く。しかし、夕暮れには涙が宿っても朝明けには喜びの叫びがある。私たちは決して独りではない。キリストは私たちの傍らに来てその腕の中で、“愛の歌”を、“希望の歌”と一緒に歌ってくださるのだ。

さあ、あなたもキリストを心に迎え、そして“感謝と喜びの歌”をともに歌いながら歩もう！

(祈り)

